



柵津御堂ワインだより

NETSU MIDO

VOL.07

発行/2022年4月1日 発行者/御堂地域活用構想推進協議会 会長 別府 英宣
(協議会事務局: 東御市6次産業化推進室 電話: 0268-75-2016)

柵津御堂地区の今についてお知らせします

生産者紹介⑦

100年以内に世界最高のワインを造りたい

ひかるの畑 ^{すずき ひかる} 鈴木輝 さん

●ワイン造りを志したきっかけを教えてください。

元々お酒が大好きで、ワインもよく飲んでいました。大きなきっかけは、キリマンジャロ登山中に危うく命を落とすほどの経験をしたことです。一度きりの人生のなかで、生涯追求し続けることができるのは、大好きなワインを造ることではないかと思ったのが始まりです。



ひかるの畑
電話: 090-2752-0662
メール: hikaruszk@gmail.com

●栽培の場所として東御市を選んだ理由は何でしょうか。

海外も考えていましたが、日本ワインを飲み、日本でもこんなに美味しいワインが作れるのかと驚きました。各地の気候について調べていたところ、降水量が少なく晴天率が高い東御市に辿り着きました。この環境であれば、美味しいワインができると確信しました。

●御堂を活用して、どのようなワイン用ブドウづくりを目指していますか？

自然なかたちでのワイン造りを目指しています。そして100年以内に世界最高のワインを造りたいです。私が考える世界最高のワインとは、飲めば幸せな気持ちになり、自然と笑顔になれるワインです。この哲学と精神が受け継がれていけば、そんなワインがこの地で作れると信じています。

●御堂の将来像をどのように描かれていますか？

御堂は単なるブドウ畑にとどまらず、本州最大級の広さと恵まれた気候から「銘醸地」と言われるような土地になっていくと思っています。ゆくゆくは世界中の人々がこの地に訪れ、スポーツや音楽と同じようにみんなで同じ時間を共有し、その時間が楽しくて、心地よくなれるような空間にしていきたいです。

●地元の皆さんへのメッセージをお願いします。

地元の方々に支えられて、この御堂が成り立っていると思っています。そんな皆さんに少しずつでも恩返しをしていきたいです。そのためにも、地元の方々に気軽にワインを飲んでいただけるようなワイン造りをしていきたいと思っています。

聞き手: 米田直人 (東御市地域おこし協力隊・ワイン&ビアミュージアムコンシェルジュ)



◆第5回◆
冬~春の
ブドウ畑は
どうなる？

1月から3月はブドウ樹の樹液(根から土の養分とともに吸い上げられる水分)の流動が止まり、眠りについている活動休止期。樹形を整えるため枝の剪定作業に最適の時期です。枝が切り揃えられた畑では、ブドウ樹が活動を始めます。そうすると、剪定した枝の先から樹液が涙のように滴る「ブドウの涙」とも呼ばれる光景が見られることもあります。4月末頃からは、気温も徐々に上がりブドウの新芽が出てきます。一気に春らしい景色になるのが楽しみです！



大山江利子 (東御市地域おこし協力隊・ワイン&ビアミュージアムコンシェルジュ)